

希少な淡水魚「ニッポンバラタナゴ」の保全に関する研究



自然・環境マネジメント研究部 生態研究グループ

高橋 鉄美

「ニッポンバラタナゴ」とは？ ニッポンバラタナゴは、日本に固有なコイ科の淡水魚です。この小魚は、かつては西日本の多くの川で見ることができました。しかし、1940年代に近縁亜種のタイリクバラタナゴが中国から入ってきて、交雑するようになりました。その結果、現在では九州を除く地域のすべての川から、純粋な個体がいなくなっていました。

兵庫県のニッポンバラタナゴ 兵庫県でも、川ではタイリクバラタナゴか交雑個体しか見つからなかったのもはや絶滅してしまったのでは、と考えられていました。ところが近年、神戸市や近辺のある「ため池」から、純粋なニッポンバラタナゴと思われる個体が採集されました。

遺伝子調査 ニッポンバラタナゴとタイリクバラタナゴは外見が似ているため、見分けるには遺伝子を調べる必要があります。そこで核DNAを調べ、神戸市や近辺の個体群が、ほぼ純粋なニッポンバラタナゴであることが判明しました。

保全の取り組み 神戸市大沢町では、ニッポンバラタナゴを自然豊かな地域の象徴として、農産品のアピールを行い地域活性化に役立てようとしています。このような試みは、継続的な保全を行う上でとても重要です。



ニッポンバラタナゴ
環境省絶滅危惧IA 兵庫県Aランク